

おーぶん

社会福祉法人さざんか会法人広報誌『おーぶん第 100 号 2024 年度末』

発行:さざんか会法人本部/船橋市行田 2-8-1/☎047-404-1135

編集:おーぶん編集委員会/けいよう/船橋市二和西 5-10-1/☎047-411-8177

「文明の利器」という言葉があります。ネットで調べると「物質的文明の発達によってもたらされる便利な器具、機械」とあります。確かに私たちは、時代を追う毎に発明や発見などを通して、より豊かにそして便利に快適にと飽くなき欲望を抱いて文明を進化させて来ました。



私事の例えで恐縮ですが、65年程以前の小学生であった頃、「三種の神器」という言葉がありました。これは家電製品である「テレビ・洗濯機・冷蔵庫」を指したものでした。この頃、三種の神器がすべてそろった家はそうはありません。

わが家にテレビが来たのは小学4年生だったと覚えますし、もちろん白黒テレビでした。確か、その時洗濯機や冷蔵庫はなかったように思います。全てがそろったのは、ずっと後のことでした。

さて、現代の「三種の神器」は何になるのでしょうか。さしずめ「パソコン・スマホ・4Kテレビ」辺りでしょうか。異を唱える人

『便利の中の落とし穴』

社会福祉法人さざんか会 理事長 宮代 隆治

おーぶん 100 号目次

P 1 「便利の落とし穴」
さざんか会 理事長 宮代隆治

P 3 寄稿『卒園にあたって』
・さざんかキッズ保護者
阿世保 美貴 様
・とらのこキッズ保護者
安田 未緒 様

P 5 各事業所冬～春だより
・けいよう
・ゆたか福祉苑
・カメラアハウス
・のまのまホームズ
・のまる
・とらのこキッズ
・さざんかキッズ

P 9 北総の里だより
・北総育成園
・グループホーム野の花

P 12 後援会だより

もありましたが、ここは独断で話を続けます。パソコンやスマホの出現と普及は、人と人の関係性に劇的变化をもたらしましたし、暮らしそのものにとっても大きな影響を及ぼしました。居ながらにして、世界中の人と意思の疎通が叶います。目にしたい光景や未知の事項について調べ、知ることができます。どこに居ても、何時であらうとも、今何が起きているか国内外に関わらず、瞬時に情報を入手することもできます。映画を観たり、音楽を聴いたり、漫画を読んだり、好きなことをどこでもいつでも楽しむことができます。結果、揺れる電車の中で、座席や吊革に関わらず乗客のほぼ全員がスマホを見ている、という光景があります。百科事典であり、図書館であり、博物館であり、通信手段であり、その他もろもろ。とにかく便利なものです。ではありますが、この便利な機器も使い勝手により、怖い武器と化します。



自分の心情をネット上に吐露すること自体は問題ありませんが、特定の人物について非難するばかりか、度を越えた誹謗や中傷などを浴びせかける、そんな言辞が溢れています。その言辭が本当のことなのか、あるいは根拠のない虚言なのか、真偽のほどは曖昧に、とにかく口撃、攻撃、雨あられのごとくこれでもか、罵り倒す勢いです。



ターゲットにされた人はびっくり仰天、「なぜ?」。不安や動揺、恐怖におびえます。不眠が続き、情緒をかき乱されてしまいます。挙句、自死してしまう悲惨な事件もありました。これは極端な事例かも知れませんが、とにかく人心を傷付け、不安をあおり惑わせ、扇動してしまうこともあるようです。先日、選挙をめぐる真偽不明の情報が拡散されました。その結果が、このような情

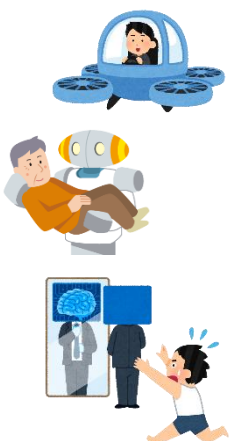
報に影響を受けてしまったのは、と思われる次第です。自分の主義主張を広く世間に知らしめる、言論の自由は憲法にも保障された、大事な権利です。でも、相手の人格を嘘偽りまみれの誹謗や中傷で塗り固め、そして貶める目的で世間に公言するなら、それは果たして言論の自由に値するものでしょうか?

嘘偽りが喧伝され、挙句取り返しのつかない悲惨な事件がありました。関東大震災の起きたとき、「朝鮮人が井戸に毒を入れた」、「暴徒となり襲ってくるぞ」とデマが流れ、市民は自警団と称して竹やりなどで武装して、彼らを捕縛し惨殺しました。東京や神奈川、千葉は市川や八千代、そして船橋でも起きたことが記録されています。また、馬込霊園には殺された人々を慰霊する碑が建てられています。この時はマスコミも、大震災に恐れおののく人心を煽ったのです。昔々のこと…、では済まないと思います。社会的に、或いは発言力の弱い立場の人に攻撃が仕向けられたとき、才力に睨まれた子羊状態になります。

文明の進化とともに、私たちの知性なり精神なりが深化、進歩すればよいのですが私自身も含め、どうもそうはなっていないようです。いつ、どのような状況下であっても冷静沈着に判断し、真偽の検証を怠ることなく、少なくともデマや迷いごとに惑わされることのない存在でありたいものです。



生活が便利になり、そこから心身に余裕が生まれ、より充実した時間が送れるならば、それは望むところですが、神器たる機器を使用するに、その使い勝手を誤ると、とんでもないことになることも肝に銘じましょう。世相に格差や分断が蔓延する社会であれば、尚更のことです。



【特集】 この春、さざんかキッズ
およびとらのこキッズの卒園を迎えられた保護者様に寄稿いただきました。

『やっつかに包まれて』

我が家の長男・遥太（はるた）は、こだわりが強く、多動・衝動の傾向からマイペースで活発な性格です。赤ちゃんの頃は、よく食べよく寝て、2歳年上のお姉ちゃんの遊び相手をしている母の傍で、一人でニコニコ笑い、一人でこつと眠り・・・そんな当たり前の成長を見て、この先、一緒に園に通い、一緒にランドセルを背負って学校に行く姉弟の姿を思い描いていました。

しかし、1歳、2歳を迎えても発語がない、名前を呼んでも反応しない、人への興味が感じられないなど当たり前前に望んでいた成長が見られません。時が経つにつれ、ゆつくりといつかは出来るようになるだろうと蓋をしていた不安が大きくなりました。そんな頃、市のこども発達相談センターの心理士さんに2歳の息子の成

長の遅れについて相談しました。同時に姉の通う幼稚園のプレ保育に通い始める頃でもありました。園では、教室に入るのを拒む、先生の指示が入らないなど心配していた通りに・・・半年程通うものの、周りのお友達が遊びやお仕度を覚えていく中で、園に居ることすら精一杯な息子を見て、母の気持ちは沈む一方でした。

そんな状況を少しでも変えたく、心理士さんに相談したところ、たんぽぽ親子教室へ通うことになりました。そこは初めて見た療育の場でした。子ども一人ひとりの特性に配慮をし、親子の関わり方をサポートして頂き、息子も日々の積み重ねで1つ2つとできる事が増えていきました。

3歳の頃、発達検査で知的に大きな遅れがあることがわかりました。覚悟はしていましたが、それは息子の障がいに向き合う辛い現実でした。この先どう育っていくのだろう、言葉を話せるようになるのだろうか、この子を迎えてくれる場所はあるのだろうか・・・成長の一步が何倍もかかる息子を見て、この先も毎日を安心

して過ごせる環境で過ごしてほしいと強く思うようになりました。

そんな中、運良く年少の6月から、さざんかキッズに通えることになりました。しかし入園すると早々に、園で出されるお茶を飲まない、給食に手を付けない・・・母の予想していなかった姿を目にします。何をしたら良いかわからない家族でしたが、先生方は息子と一歩ずつ関わってくださいら都度様子を伝えていただきました。

入園して半年経った頃、クラス見学の機会があり広いお部屋でサーキットの活動をしていました。そこでは、息子が自分の番を終えると、両手を広げて満面の笑みで先生とお友達のところへ駆け寄っていく、そんな姿を見て嬉しくなりました。その後、年中、年長と周りが見えていきわかることも増える一方、気持ちの強さから過ごしにくい場面も増えていきました。そんな大変な時でもさざんかキッズの先生方は根気強く、たくさんの愛情でやさしく包み込み、息子の笑顔を引き出してくださいました。

先生、お友達から「はるちゃん」「あせぼくん」と呼んでもらえるこの場所が大好きでした。そんなさざんかキッズで過ごした3年間、遥太の心を大切に育てていただき、大変感謝しております。

さざんかキッズ保護者

阿世保 美貴



「かけがえのない3年間」



我が家の2人目の子である娘、彩芭（いろは）は2018年4月に生まれました。寝返り、はいはい、歩き始めと兄と比べても1歳頃までは順調に育っていると思っていました。しかし1歳半には出ていた喃語が出なくなり、その後も言葉は出ず、2

歳になる頃には難治性のおんかん発作が見つかりました。その後右脳の一部が機能していない事がわかり、そのせいか娘の知的障害は重く、歩行にもふらつきが見られました。

2歳になると同時に療育に通い始めました。

先生や先輩ママさんから、とらのこキッズの良い評判を聞いていたので、いずれはうちの子も入園できたらいいなあと思うようになりました。しかし入園できる年齢に近づいても、歩くことはできませんでしたが、かなり不安定で、常に誰かが横で見なければならぬ状態でした。そのため、入園を受け入れてもらえらるのだろうか、とても不安な気持ちでした。その後話だけでも聞いてもらおうと電話で問い合わせをし、その年の秋に翌年4月からの入園申し込みをしましたが、結果は待機となりました。しかし、それから数か月後

に園から電話があり、他の年少さん数名と共に、5月から入園できることになりました。

入園後も、先生方皆さんが細かく気を配って娘を見てくれました。いつでも園の様子を見に来てください、何かあれば連絡くださいと言っていたとき、実際に何かあればすぐに電話で知らせてくれたので、本当に心強く、安心して預ける事ができました。

一つのことができるようになるのに、とても時間がかかる娘でしたが、手洗いやズボンを引っ張るなど、園で取り組んでいることを急に家で披露してくれるときには、家族みんなですごい！すごい！と大喜びしました。

娘の障害を知った時、この娘は友達と笑い合うことは一生できないのかもしれないと思い、その事が本当に辛く、毎日涙がとまりませんでした。しかし、年長になる頃にはお友達と笑う姿を見せてくれたり、お友達に娘からハグをしていると先生が教えてくださったりと、娘の成長にとっても感動しました。言葉



が話せず、気持ちも読み取りづらい娘ですが黄色い園バスを見ると、「のりまーすー！」といわんばかりにバスに走り寄り、私を振り返らずに一目散にバスに乗る姿は、園を楽しんでいる何よりの証拠でした。そんな些細なことですが、それは私にはとても嬉しく、自慢のエピソードとなりました。

とらのこキッズに通うようになり、毎日バスに乗り、みんなと一緒に給食を食べ、元気に外で遊んで、普通の幼稚園生と同じような生活ができたことは、重い障害を持った娘の未来に、色々なことをあきらめかけてしまっていた私にとって本当に夢のようでとても励みになりました。

とらのこキッズで、娘はたくさんの愛を受け、たくさん学び、たくさん笑い、かけがえのない日々を過ごす事ができました。娘と仲良くしてくれたお友達、毎日笑顔で迎えてくださった先生、関わってくれた全ての方々に感謝しています。3年間本当に本当にありがとうございました。



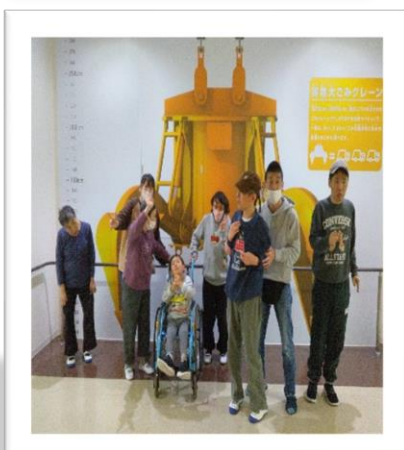
けいよう

けいようではカラオケ機器をレンタルしていて、それぞれの班が活動で活用しています。カラオケ機に搭載されている体操コンテツを使い、身体を動かしたり、本人映像を見て真似して歌って踊ったり各班それぞれ楽しんでいます。



ゆたか福祉苑

本年度最後のおーぷんとなりました。今回は各班で行われたイベントのご紹介をします。12月には清掃工場の工場見学に行き、ゴミが処理される様子を見学したり、2月には豆まきを行い職員が扮した鬼に、豆に見立てたフェルトボールを投げ大盛り上がりでした。ゆたか福祉苑では、今後も皆様に楽しんでいただける様なイベントを開催していきたいと思っています。



カメラハウス

○障害者記念事業○

先日、船橋イオンにて販売会がありました。ご利用者さんも1名売り子として販売に参加してもらいました。多くの方が買いに来てくださり皆さんが作った作品やパウンドケーキも沢山売れたようです！記念事業では販売だけでなく、ボッチャ体験など多くの催し物もあり遊びに行かれた方は楽しまれていたようです♪

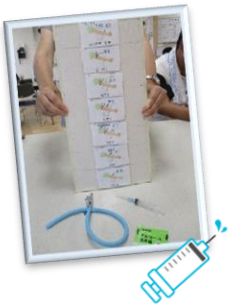


健康診断

毎年ご利用者さんの健診がありますが、血圧測定や採血が苦手な方がいらっしゃいます。少しでも安心して受けられるようにと、看護師が絵カードを使用し、その季節が近づいてくると先輩ご利用者の協力を得ながら一緒に練習しています。

先日の健診では苦戦する場面もまだありましたが、練習の成果もあって安全に終えることができました☆

いろんな方の協力を得ながら、これからも皆さんの健康管理に努めていきたいと思います。



ホーム便り

今回のホーム便りは、節分の日
のホームの夕食の風景をお伝え
します。



毎年、皆様の健康を祈って

恵方巻を用意しておりますが

最近の恵方巻は定番のものから

お肉の恵方巻、はたまた豪華な

ものであったりと色々な種類が

あることを知り、驚きました。

ホームの皆様もあれがいい！こ

れがいい！と興味津々のご様子

で、それぞれ



お好きな恵方巻を選んでいただき
ました。今回の一番人気はヒレ
カツが入った恵方巻でした。



「ガブリっ！」と大きな口を
開けて美味しそうに召し上がら
れていました。



のまる



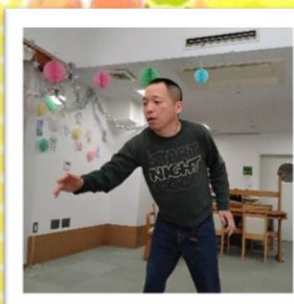
寒い日が続いていましたが、少しずつ暖かい日も増えてきましたね。皆様、如何お過ごしでしょうか。

のまるでは2月18日(火)に『冬祭り』(旧芋煮会を開催しましたので、その様子を紹介したいと思います。

イベントの名称が変わり、冬祭りイベントを行うのは初めてでした。冬祭りイベントでは係による出し物で、節分にちなんだ玉入れゲーム・軽食を用意しました。ゲームの玉入れでは各鬼に得点が記載されており、白線の外側から利用者様に投げ入れて頂くゲームを行いました。最高得点のユニットには、お菓子詰め合わせの景品が用意されており、皆さんやる気に満ち溢れていました！素早くボールを投げ込む方や、箱へ歩いて持っていく人、慎重にゆっくり入れようと手を伸ばし頑張っている姿など様々な皆様の姿が見ることができ会場は盛り上がっていました。

ゲーム終了後は軽食で「おしるこ」とアイスの「雪見だいふく」が用意され、おしるこの中に雪見だいふくを入れて笑顔で召し上がっていました。昼食はグラタン・巻物・甘酒など普段よりも豪華なメニューに、目をキラキラさせ美味しそうに召し上がっていました。食事が終わった後も「おかわりー」と、スタッフに伝えている方もいました。これからも、皆様が楽しめるイベント作りを行っていききたいと思います。

まだまだ、朝晩が冷え込み寒い日もありますが、体調管理に気を付けて、これから訪れる春を皆さんと一緒に迎えたいと思います。



とらのこきっず



日中は、ポカポカと温かい日が増えてきましたね☀
とらのこキッズでは、いろいろな集会を行いました！

1月は、ししまい集会です！

獅子に噛まれて元気モリモリ
パワーをもらいました🐉

2月は豆まき集会★

みんなで力を合わせて鬼退治
をしました！最後には、鬼さ
んから仲良しメダルをプレゼ
ントしてもらいました😊



たくさんさんの笑顔と成長が見ら
れた一年間でした！とらのこ
キッズのお友達、いつも元気
を分けてくれてありがとう♡
新しいステージでもみんなら
しく頑張ってるね😊
保護者の皆様も一年間ご理
解、ご協力ありがとうございました！



さざんかキッズ



「明けましておめでとございます😊」のご挨拶を子どもたちと交わし今年もスタートした
2025年のさざんかキッズ。1月にはお正月集会、
2月には各クラスに鬼が登場し豆まきを
しました！！



お正月集会では、さざんか神社にお賽
銭をしてお参りをしたり、獅子舞さん
が登場し、その大きな目と口にビック
リ!! 恐がる子もいましたが、中には自
ら噛まれに行く子もいました🐉
豆まきでは、新聞紙豆を鬼に向かって
投げたり、鬼の手に優しく手渡したり
と、季節の行事を通して子どもたちの
色々な様子を見ることができました😊

北総の里だより

北総育成園

「県外研修（茨城県）報告」

北総育成園では全職員が年に一度は外部研修に出て研鑽に努めています。今回は県外研修の報告です。

支援主任 保科 智子

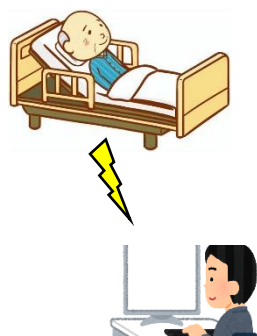
てていました。彩りも良く、おいしく頂きました。



1月27、28日白樺施設長と共に千葉県知的障害者福祉協会障害者支援部施設長等研修会に参加させて頂きました。今回の見学は茨城県の2法人です。県外の施設をみることは普段ないのでとても良い機会でした。

1日目は社会福祉法人ユーアイ村さん。まずは昼食のお弁当を頂きました。就労継続支援B型のユーアイキッチンさんで手作りされていてお弁当の包みや箸入れにはユーアイファクトリー（生活介護）の利用者さんの絵が使われていました。鮮やかで目を引く絵が、お弁当を引き立

みんなが楽しみにしている行事になっているとのことでした。ユーアイの家（特老）では各ベッドに空間センサーとカメラを付け、睡眠を見守れるようにして職員の見回り業務を軽減していることや、全ての施設でデジタル化にすることで情報共有をしていることは、北総とは違い驚くこともありました。



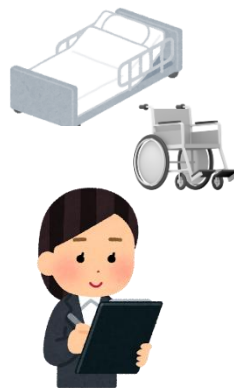
また、高齢になり障害者施設から特老に移った方もいるそうで、ユーアイ村がその人を長期に支えていく仕組みがありました。

そこでは特老の職員が障害特性を理解できず関わりが難しかったり、本人が新しい環境に慣れるまで時間がかかったりとい

ろんなことに難しさを抱えることもあるとのこと。職員間の情報共有が大事になると伺いました。看取りのお話では、住み慣れた施設で知っている職員や家族で安心して看取れる。病院で治療し命を長らえるよりも施設で穏やかに過ごせる。命はいつなくなるかわからないので、今を大切にしている。などのご説明で、特老だからこそその考えや意見だと思いました。

北総でも高齢となり介護が必要の方が増えましたが、入所施設では限界があることを感じることもあります。特に医療が必要になってきた時です。利用者さんにとって同じ場所と同じ顔ぶれで生活することは本人も安心すると思いますが、今の利用者さんにとって本当に良い環境なのか？車椅子移乗や食事介助ももっと良い方法があるのであるのでは？と思う時があります。個々の利用者さんに合わせて対応を考えていますが、今後の課題が多くあります。私は北総の利用者さんとの関わりが楽しくて大好きです。これから大切に安全に支援をしていきたいですが、医療ケアや、看取りを…と考え

ると、色々と考えさせられます。施設での看取りが良い悪いはわかりませんが、具体的な体験のお話を聞いたことは勉強になりました。



生活介護事業での製品は、素敵なアート作品もあり参考になることが多く、ぜひ取り入れてみたいと思いました。他にも音楽活動、楽器演奏や歌うこと、踊ることを楽しんでいました。発表もしてくれましたが、とても活気あるものでみんなの表情が生き生きとしていました。好きなことを活動とすることは元気の源になるのだと感じました。

グループホームもすぐ近くにあり、ユーアイキッチンで働く方が歩いて通えるようになっていました。きれいな建物で暮らし、働きに出る場があることで充実した暮らしが送られていることが伺えました。

2日目に見学した社会福祉法人茨城補成会さんは創立昭和14

年と歴史は古いですが、令和4年に新築しているので、どこもセンス良くきれいでした。子供から高齢者までが過ごす多機能福祉モジュールになるように創られています。就労支援事業所・生活介護・入所・発達支援センターを見学しました。「はたらくガッツ村（就労支援事業所）」は就労移行就労継続支援B型の施設でお菓子やスイーツ作り、レストラン経営をしていました。社会で働くための実践的な訓練の場としていて、スイーツのレベルが高く、他の企業と同じに評価され、地域の品評会に入賞しているとのことでした。

今回の研修に参加させて頂き各施設長さんとお話させて頂き、皆さんのパワーと元気と勇気を頂きました。多くのことを様々な角度から学ばせて頂きました。同時に、自分をもっともつと知識を得ていくことも必要だと気付けた機会にもなりました。素晴らしい施設をみることで刺激になり、自分の仕事もきちんとやっていこうと改めて考えることもできました。参加させて頂き、ありがとうございます。

地域連携推進会議

令和6年度障害福祉サービス等報酬改定により、障害者支援施設及び共同生活援助事業所において、地域との連携等に資するため、地域連携推進会議の開催及び地域連携推進会議の構成員が当該事業所を見学する機会を設けることが必須となりました。これを受けて、令和7年4月からの義務化を前に、第1回地域連携推進会議を2月20日に開催しました。



手芸介護班を見学して下さっている委員の皆様です

お楽しみおやつの様子



3月5日のお楽しみおやつの日。それぞれ個別対応で笑顔で、おいしく召し上がってくれました。

グループホーム野の花

「グループホーム野の花」の暮らし

生活支援員 野口 光子

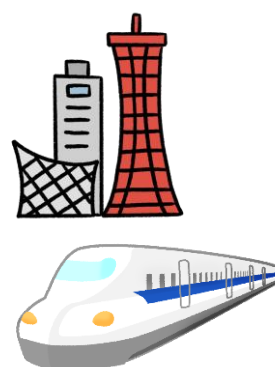
東庄町笹川にあるグループホーム野の花は、目の前が一面田んぼで季節により色彩が変わり、1年を通して折々の景色を楽しむことができ大自然を満喫できる場所に建っています。コロナ禍の窮屈な生活がかなり緩和された令和6年度、以前と同様の生活が戻ってきました。世の中の様子も変貌を遂げ、マスクをつけず公共機関を利用する等の光景も当たり前になってきました。人流も増え、インバウンドもコロナ前以上の増加とのニュースも聞こえてきました。



野の花の利用者の皆さんも、コロナ禍では自宅に帰ることも控え、買い物も限定された時間内で近隣のスーパーに職員と出かけ、好きなものを選ぶというスタイルでした。当たり前になってきたことが出来ず我慢をしてきました。そのストレスは計り知れないものだと思います。そこで、今年は2チームに分かれ旅行を計画しました。野の花始まって初の試みです。

1チーム目は時代劇「暴れん坊将軍」が大好きで「1度姫路城に行ってみたい!!」との強い要望があり兵庫県へ行くことに決定。7月暑さに負けず高速バス、新幹線を使い継ぎ2泊3日の旅です。事前に旅行雑誌を購入し行きたい場所や名物の食べ物、お土産等を調べたり、衣類も新調し準備万端です。ワクワク、ド

キドキの興奮した気持ちで当日を迎え出発。都会の人込みを通り抜け、新幹線に乗車。



姫路の街並みを歩く距離も長く大変でしたが、景色を楽しみながら気持ち足が動かししました。真っ白な姫路城はとても綺麗で大きさと迫力に大満足でした。神戸に移動し市内観光、神戸牛のステーキに舌鼓。沢山のお土産を買い、長旅でしたが心地よい疲労感を堪能しました。



神戸ポートタワー付近にて遊覧船の前で



2チーム目は、戦隊ヒーローが大好きなメンバー。東京方面になりました。9月の東京は残暑厳しい中でしたが、暑さ以上に楽しみの方が勝っていました。東京ドームシティホテルに宿泊、1泊2日の旅行です。

東京ドームでは野球博物館があり展示されている様々なものに目を奪われ時間を忘れて見学。お土産に折れたバットを加工した箸「かつとばし」を購入し、毎日食事で使っています。



偶然アイドルのイベントがあり会場の雰囲気や迫力を肌で感じ、大都会での食事は高層ビルでのビューフェランチでした。お店の配慮で景色の良い席を用意していただきましたが、高い所に慣れていない利用者さんには刺激が強すぎたようです。しかし非日常の極上の時間を満喫することが出来ました。



東京ドームホテルに宿泊

野の花の日常生活は、電車を利用して銚子まで1時間をかけて出勤する方、笹川なずな工房に通所する方がいます。週末の休みは居室で過ごしたり、ドライブ、近隣スーパーへ買い物とのんびりと過ごしています。季節のイベントや誕生会、リクエストに答えた昼食作りを行いささ

やかながらお楽しみを作った暮らしを心がけています。
4月の桜の花見&イチゴ屋さんのスペシャルスイーツに始まり、裏山でのタケノコ堀り、芝桜見学、あやめ見学、ザリガニ釣り、8月は夏季休業でもあり休み期間中は、なずな工房の職員が日替わりで特別メニューの昼食を作りました。その他では、かき氷作り、白玉団子作り、じゃが芋堀り、コスモス畑見学、ハクチョウ餌やりやクリスマス会等々、皆さんの興味があつたような内容を考えてきました。時にはホットプレートと一緒に調理したり皿を並べたり参加することで、より一体感を感じる楽しい時間になったように感じます。



ホームでお好み焼きパーティー

正月休みでは「元旦」に、いつもより早起きして皆さん揃って初日の出を拝むことが出来ました。1年の始まり、気持ちを新たに新年を迎えています。恒例となった豪華弁当、羽生施設長「特製お好み焼き」と利用者さんのお楽しみが続きました。



令和7年 初日の出

何もしなくても時間は過ぎていきます。しかし「野の花」での生活を誰よりも楽しく、充実したものになるかを考えて、心身ともに健康で、利用者さんの笑顔の為に、今後も支援していきたいです。



さざんか会 後援会だより

令和7年6月11日(水)
第31回定期総会を
薬円台公民館にて開催
します。

※詳細は後日お知らせ
いたします。

編集後記

文字通りの三寒四温を繰り返しつつ、春を感じる時期となりました。この冬は、日本海側を中心とした大雪被害が相次ぎ、家屋をも倒壊させる雪の恐ろしさを改めて感じました。これも地球温暖化の影響で、今後も各地で発生しかねないと知り、読者の皆様の安全を願わずにはられません。

今年度も大変お世話になりました。令和7年度も何卒よろしくお願い致します。

担当(〇)